

**スタートアップ振興に向けた
経団連の取り組み
- Keidanren for Startups -**

2024年6月更新

一般社団法人 日本経済団体連合会

スタートアップ委員会

- Society 5.0に向けては、ビジョンドリブンで課題解決や価値創造に挑戦する**スタートアップ**を振興し、産業構造の転換や産業の新陳代謝を図っていくことが不可欠。
- **スタートアップ委員会**は、**Society 5.0**を担う**企業群**である**スタートアップの振興**に向けて、2019年5月に発足。

主な活動

活動1. スタートアップ振興のための制度整備

- 提言「スタートアップ躍進ビジョン～10X10Xを目指して～」
- 規制改革要望・税制改正要望

活動2. 大企業の行動変容

- スタートアップフレンドリースコアリングの実施
- CVCネットワーキング

活動3. スタートアップと大企業の連携促進

- Keidanren Innovation Crossing(KIX)の定期開催

体制

スタートアップ委員会 Committee on Startups



委員長
南場 智子
NAMBA Tomoko
ディー・エヌ・エー会長



委員長
高橋 誠
TAKAHASHI Makoto
KDDI社長 CEO



委員長
出雲 充
IZUMO Mitsuru
ユーグレナ社長

企画部会 Sub-committee on Startups



部会長
齊藤 昇
SAITO Noboru
BIPROGY社長

委員

事業会社のオープンイノベーション・新規事業担当の執行役員以上(～社長・会長)、スタートアップの役員以上に限定

活動

役員必須のハイレベルなネットワーキングイベント「**Keidanren Innovation Crossing (KIX)**」の開催、スタートアップ振興政策の議論等を行う

スタートアップ政策タスクフォース Taskforce on Startup Policy



座長
出雲 充
IZUMO Mitsuru
ユーグレナ社長



座長代理
松本 勝
MATSUMOTO Masaru
VISITS Technologies CEO

委員

スタートアップに限定(非会員も参加可)
*会員のスタートアップから推薦を受け、かつ、座長が認めた場合に限る

活動

ワンストップで様々な政策テーマに関してスタートアップとしての意見を取りまとめる

スタートアップ躍進ビジョン

Why
Startup ?

社会課題の解決やイノベーションを生む
仕組みとして最も優れたスキームの一つ

昨今の状況

- わが国においても10年前と比較すると起業数も総投資額も大幅に増大、制度面も徐々に環境整備も進む
- スタートアップ先進国はその間にもさらにスタートアップ振興施策を打ち立てている (Faster-moving target)

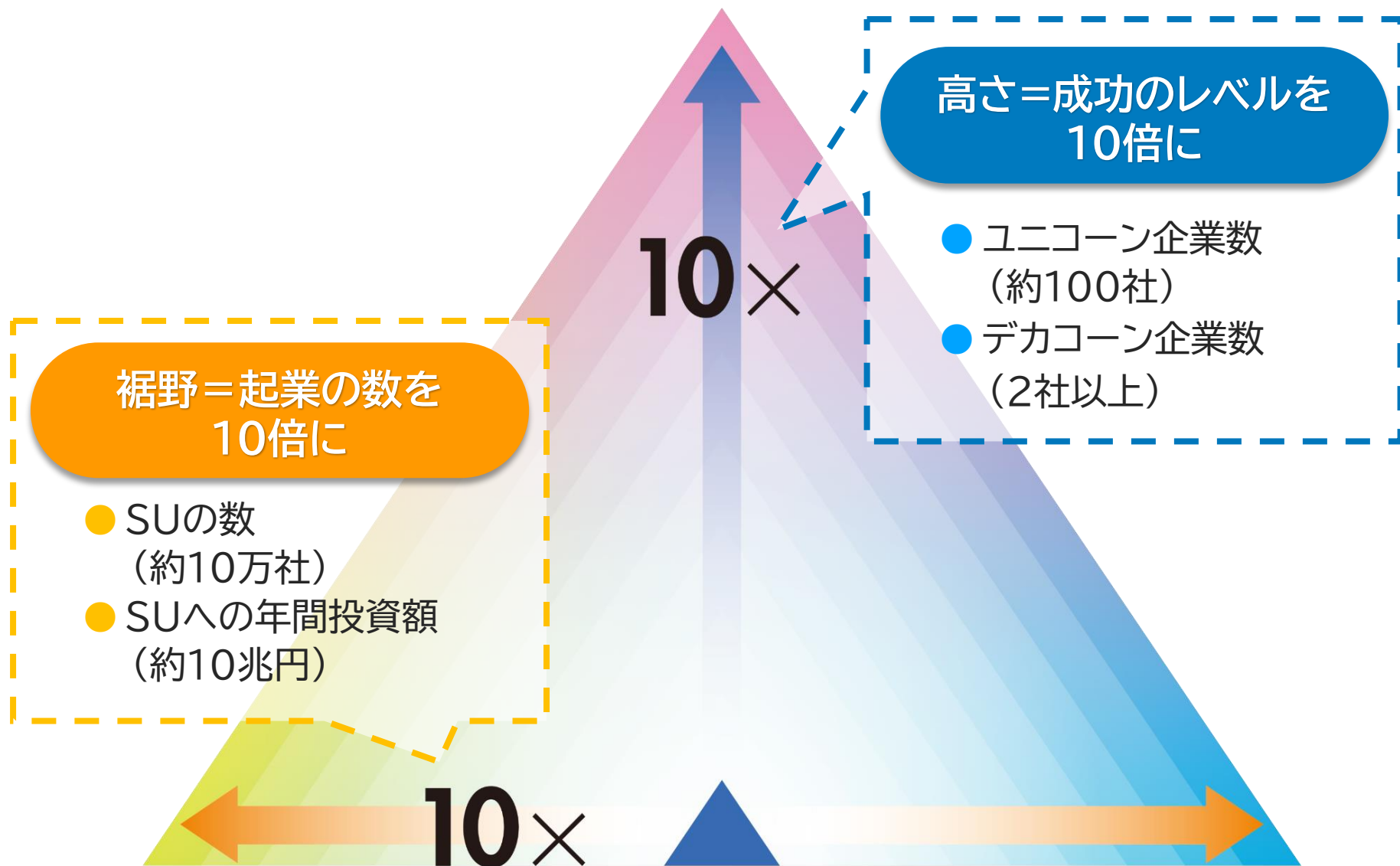
2022年3月15日

提言「スタートアップ躍進ビジョン」を公表

日本経済全体を浮揚させ、再度競争力を取り戻すための最も重要な課題として
スタートアップエコシステムの抜本的強化を提言

景気変動に関わらず、官民を挙げて必要な施策を一斉に、迅速に、力強く推進

2027年の目標：10X10Xの世界へ



5年後に起こすべき

7つの変化に向けた38項目 — 2027

1

世界最高水準のSUフレンドリーな制度

- ▶ エクイティの柔軟な活用が可能な制度の整備
- ▶ 各種行政手続の簡便化・コスト削減
- ▶ 規制改革関連制度の強化と周知、支援体制の確立
- ▶ 公共調達におけるスタートアップの更なる活用
- ▶ 共通知見横断ライブラリーの整備
- ▶ スタートアップとの契約の適正化
- ▶ 個人投資家の参入を促す環境整備
- ▶ ベンチャーデット産業の整備・促進

世界で勝負するSUが続出

- ▶ 政府系ファンド、機関投資家をはじめとした多様なプレイヤーによるスタートアップ投資の促進
- ▶ 大企業によるスタートアップのM&Aの活性化
- ▶ 事業のカーブアウト・スピンオフの加速
- ▶ 未上場株セカンダリーマーケットの整備
- ▶ グローバル展開を後押しする環境の整備
- ▶ グローバルアクセラレーションプログラムの更なる活用
- ▶ 国家レベルでの英語力強化
- ▶ 留学の促進

2

日本を世界有数のSU集積地に

- ▶ 世界有数のベンチャーキャピタルの誘致
- ▶ アジアの起業家・エンジニアの誘致
- ▶ グローバルトップ企業のアジア拠点の誘致
- ▶ 言語・教育・医療等スタートアップ外国人材向けの生活基盤の整備
- ▶ 優れた研究者を呼び込む知的財産権制度の確立

3

4

大学を核としたSUエコシステム

- ▶ 各大学が有する強みの特定・更なる強化
- ▶ 各地の強みに応じた世界トップレベルの産業クラスターの形成
- ▶ 大学による研究者・学生のスタートアップ起業支援
- ▶ ディープテック系スタートアップへの助成
- ▶ 地方銀行による積極的支援

人材の流動化、優秀人材をSUエコシステムへ

- ▶ 大企業の採用から経営層まであらゆるレイヤーの多様化
- ▶ 副業・兼業の推進、同業転職・起業の過度な制限の防止
- ▶ スタートアップへの人材派遣・交流の促進
- ▶ シームレスな労働移動を支える税制・法制度

5

6

起業を楽しみ、身近に感じられる社会へ

- ▶ 体系的なアントレプレナーシップ教育の実施
- ▶ 多様なキャリア・才能を育む教育・大学入試
- ▶ 起業を身近なものとする文化の醸成

SU振興を国の最重要課題に

- ▶ 国のトップによる明確なコミットメント
- ▶ スタートアップ振興政策の司令塔(スタートアップ庁等)の創設
- ▶ デジタル規制緩和の推進
- ▶ イノベーションフレンドリー企業への変容
- ▶ 企業変革の支援

7

躍進ビジョンが大きな動きを創出

経団連「スタートアップ躍進ビジョン」

2022年3月公表

「骨太方針2022」「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」

2022年6月閣議決定

自民党「スタートアップ育成
5か年計画に向けた提言」

2022年11月公表

「スタートアップ育成5か年計画」

2022年11月公表

東京都「Global
Innovation with
STARTUPS」

2022年11月公表

自民党「『スタートアップ育成5か年
計画』の実現に向けた提言」

2023年5月11日公表

「骨太方針2023」「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023改訂版」

2023年6月16日閣議決定

「デフレ完全脱却のための総合経済対策」

2023年11月2日閣議決定

経団連提言が政府施策に全面的に反映

- 「スタートアップ育成5か年計画」の
8割に躍進ビジョンの要素を含む全面的な反映
- 「骨太方針2023」「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023改訂版」にも提言事項の多くが反映
- 税制改正や規制改革要望を通じ、今後もさらに提言実現の見通し

政府方針に盛り込まれた提言事項(一部)

- スtockオプションプールの実現に向けた会社法制上の措置の検討
- 税制適格ストックオプションの制度見直し
- 大学・小中高生向けの起業家教育の推進
- 公共調達でのスタートアップ比率引き上げ
- 海外起業家・投資家の誘致拡大に向けた在留資格の簡素化・創設
- 中小企業基盤整備機構、産業革新投資機構、その他政府系ファンドの出資強化

参考：政府側の動き

2022年を「スタートアップ創出元年」とし、各種政策を推進。

2022年1月



岸田首相の年頭記者会見にて
「スタートアップ創出元年」を宣言

スタートアップを生み育む
エコシステムの構築へ

6月

政府における骨太の方針において
「スタートアップへの投資」が、**重点投資分野**の柱の1つに

11月

「スタートアップ育成5か年計画」を発表

12月

令和4年度第2次補正予算にてスタートアップ支援の施策が
過去最高規模の約1兆円規模で計上

6月

2023年6月、政府における骨太の方針において、
「スタートアップの推進と新たな産業構造への転換」
が引き続き**重点分野**に

6月

令和5年度税制改正の大綱が閣議決定
スタートアップ・エコシステムの抜本強化に向けて
7つの税制を改正

経団連のアクションの3本柱

提言活動

- スタートアップ委員会・政策タスクフォースの開催
- 経団連**Startup Summit**の開催
- 政府施策に関する**レビューブックの発行**
- 規制改革要望・税制改正要望による提言
- 経済産業省研究開発・イノベーション小委員会、金融庁事業融資WG、ほか政府関係会合への意見発出

大企業の行動変容

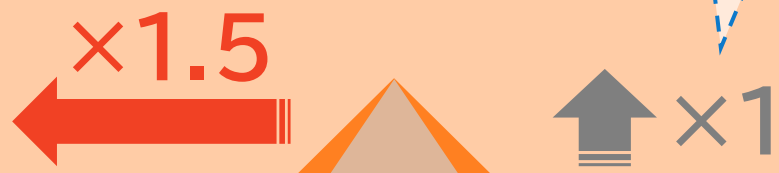
- **スタートアップフレンドリースコアリング**の継続実施
- CVCネットワークキング
- 好事例の展開
- 各種勉強会の開催(人材キャリアパス、カーブアウト等)

大企業とSUの連携

- ピッチイベント「**KIX**」の定期開催
(2019年～、延べスタートアップ280社登壇)
- スコアリング上位企業によるリバースピーチ(7月)
- 「**経団連 Startup Slack**」の導入
- 地方スタートアップとの懇談会の開催

躍進ビジョンレビューブック2024を発行

- 躍進ビジョンの実現に向けて、昨年に引き続き、**政策の実現状況や効果、残された課題をまとめたレビューブックを発行。**
- 政府施策がモメンタムを形成し、裾野拡大を後押し。グローバルで資金調達が大きく落ち込むなかでも日本は横ばいに留まった。他方で、**成功レベルの引き上げにはさらなる施策が必要。**
- 全文を経団連HPに掲載。
<https://www.keidanren.or.jp/policy/StartUp/reviewbook2024.pdf>



(出所)
 スタートアップの数:
 INITIAL データの収録概要
 年間投資額:INITIAL
 「Japan Startup Finance 2023」
 ユニコーン企業数:CB Insights

経団連Startup Summit2024を開催

日時:2024年5月27日(月)11:00-12:30

※終了後、13:30まで懇親会

場所:経団連会館2階

プログラム

■ 第2回スコアリング結果と 目指すべき連携の姿

高橋 誠 スタートアップ委員長
入山 章栄 早稲田大学大学院
経営管理研究科教授

■ スタートアップ政策のレビューと 今後の課題

岩田 和親 経済産業副大臣
南場 智子 スタートアップ委員長

■ スコアリングに関するプレゼンテーション

(1)塩野義製薬

×ピクシーダストテクノロジーズ

(2)三菱UFJ銀行×SkyDrive

(3)電通×ユーザベース

×NewsPicks Studios



高橋委員長



入山教授



南場委員長



岩田副大臣



会場の模様
約240名が参加



懇親会の模様

経団連の2023年度税制改正要望を受けて 令和6年度税制改正大綱において一定の内容が実現

提言全文 <https://www.keidanren.or.jp/policy/2023/062.html>



■ スtockオプション税制

新たな株式管理スキームを創設し、発行会社による株式の管理を可能に
年間権利行使価額の限度額を最大3,600万円/年へと引き上げ
社外高度人材への付与要件を緩和

■ エンジェル税制

一定の新株予約権の取得金額も対象に追加
信託を通じたスタートアップ投資を対象化

■ オープンイノベーション税制

新規出資型・M&A型とも適用期限を令和7年度末(2026年3月)まで延長

■ パーシャルスピンオフ税制

適用期限を4年間(2028年3月まで)延長

スタートアップフレンドリースコアリング

- 大企業はスタートアップエコシステムの重要な一角。
エコシステムを成長させるには、大企業が非連続的なイノベーションにより成長を志向するとともに、**スタートアップを社会全体で大きく伸ばし、その活力を取り込んで共に成長していく姿勢を持つことが重要。**
- そこで、取り組みの指針となるよう、入山章栄早稲田大学教授のもと、スタートアップフレンドリーの度合いを「見える化」するスコアリングを策定。
- 2024年1月に第2回を実施、約150社が参加。第1回と合わせて、**これまでの参加企業数は約200社**となった。

3つの軸で評価し、レポートをフィードバック

入山教授のもとロジックを策定

※SU:スタートアップ

1

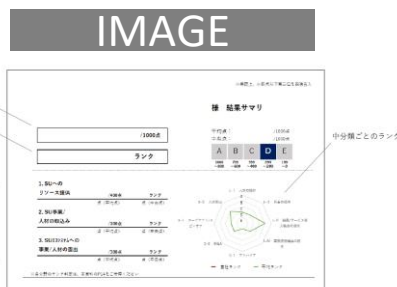
SUにリソースを
提供しているか？

2

SUを取り込み、
次世代の本業を
作っているか？

3

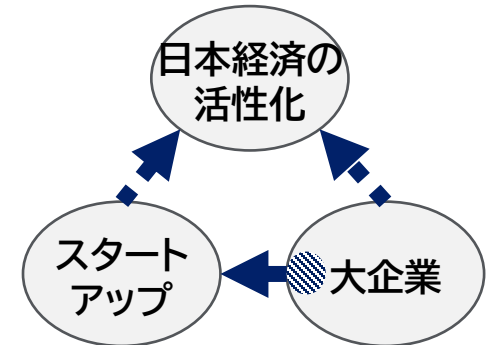
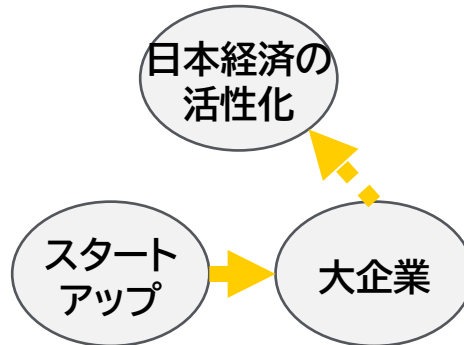
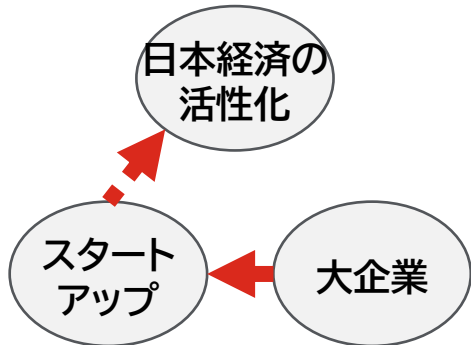
事業・人材を輩出して
SUエコシステムに
貢献しているか？



スコアリングロジックと考え方のポイント

スタートアップエコシステムの強化による、日本経済の活性化

<p>1 SU*1へのリソース提供</p> <p>大企業からスタートアップへのヒト・モノ・カネや、サービス導入機会、業務提携などの提供</p> <p><u>スタートアップへのメリット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 大企業からのリソース提供により、成長速度が向上 <p><u>大企業へのメリット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ SUと連携を行う中で、アイデア・技術・ネットワーク等の発見が容易に 	<p>2 SU事業・人材の取込み</p> <p>大企業によるスタートアップのM&Aや、経営人材のアクハイア*2</p> <p><u>スタートアップへのメリット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 大企業のアセットをフル活用した事業展開が可能 ▶ 創業者はEXITを経て、新たな挑戦が可能 <p><u>大企業へのメリット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 未来の成長ドライバーとなりえる魅力的な新規事業の種を活用可能に 	<p>3 SUエコシステムへの事業・人材の輩出(大企業の流動化促進)</p> <p>大企業から市場への事業や人材等の輩出によるエコシステムの強化</p> <p><u>スタートアップへのメリット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 大企業の経営資源が流れ込み、高い能力を持つ人材確保が可能 <p><u>大企業へのメリット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 経営資源の流動化に伴い、ビジネスの組み換えが行われ、「稼ぐ力」を向上
--	---	---

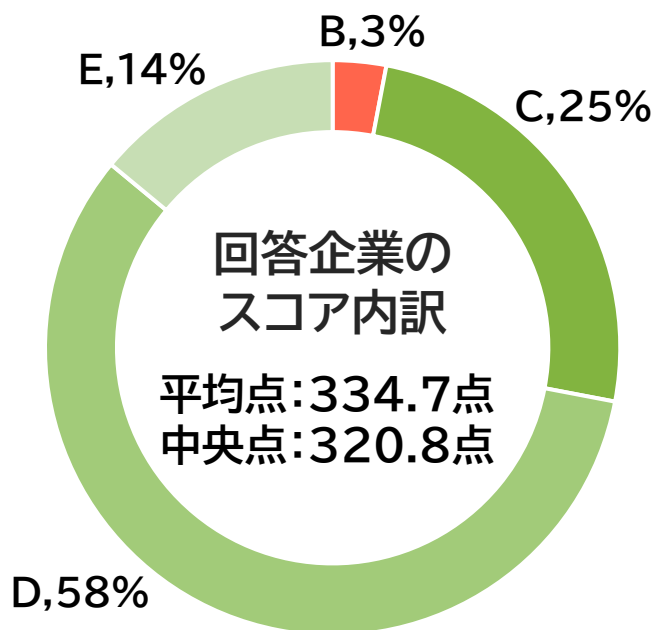


※各設問は、will(意思)、can(仕組み、制度)、do(アクション)のいずれかを聞く形で構成されています

*1: スタートアップ

*2: 人材獲得を目的として行う企業買収

2023年度スコアリングの結果概要



- 配点1000点中、平均点は334.7点。
平均点、中央点ともに昨年よりわずかながら上昇。
(昨年:平均点332.3点、中央点319.6点)
- **今年度も総合評価Aをとる企業はなし**
(本スコアリングが目指すスタートアップフレンドリーな大企業(総合評価A)とは、グローバル水準で時価総額・スタートアップとの連携がトップレベルの企業(GAFAM等)を想定しているため)
- 結果概要・事例集を経団連HPに掲載。

<https://www.keidanren.or.jp/policy/StartUp.html#scoring>

2023年度回答企業のトップ10社

1	KDDI	6	TOPPANホールディングス
2	電通グループ	7	三菱UFJフィナンシャル・グループ
3	ディー・エヌ・エー	8	日本生命保険
4	BIPROGY	9	東京海上ホールディングス
5	三菱地所	10	ANAホールディングス

スコアリングご協力企業一覧 1/2

これまでに約200社の方々にご協力いただきました
ご多忙のなかスタートアップエコシステムの活性化に向けて
ご尽力くださり誠にありがとうございました

(いずれも社名五十音順)

第1回・第2回ともにご回答

IHI 旭化成 アシックス 味の素 アルー 岩田商会 エヌ・ティ・ティ・データ
ENEOSホールディングス 奥村組 兼松 キヤノン 紀陽銀行 共同印刷 グンゼ KDDI
小島プレス工業 コマツ コングレ 佐藤工業 サンフロンティア不動産 塩野義製薬
清水建設 スズキ 住友化学 住友金属鉱山 住友生命保険 住友電気工業 積水化学工業
セブン&アイ・ホールディングス セブン-イレブン・ジャパン 総合警備保障 双日
SOMPOホールディングス 第一三共 第一生命ホールディングス 大成建設 大日本印刷
大和証券グループ本社 田辺三菱製薬 中外製薬 中国電力 TIS ディー・エヌ・エー
TDK 帝人 東京海上ホールディングス 東洋製罐グループホールディングス 東レ
戸田建設 TOPPANホールディングス 豊田通商 ニコン 日鉄ソリューションズ NIPPO
日本電気 日本生命保険 日本ゼネラルフード 日本パーカライジング 農林中央金庫
野村総合研究所 野村不動産ホールディングス 野村ホールディングス 博報堂 白鳳堂
パナソニックホールディングス BEENOS 東日本旅客鉄道 日立製作所 日立ハイテク
BIPROGY 富士通 富士電機 プリマハム 丸紅 みずほフィナンシャルグループ
三井住友海上火災保険 三井住友フィナンシャルグループ 三井物産 三井不動産
三菱ガス化学 三菱地所 三菱電機 明治ホールディングス 森トラスト 矢崎総業
ユニチカ 横浜銀行 リケン ほか

第1回のみご回答

アサヒクオリティーアンドイノベーションズ アステラス製薬 アズビル 伊予銀行
ヴェオリア・ジャパン エイジェック SMBC日興証券 小野薬品工業 川崎重工業
関西電力 キヤノンマーケティングジャパン グリーンモンスター 興和 国際自動車
相模屋食料 三十三銀行 三東工業社 三洋化成工業 JFEエンジニアリング JFEスチール
上海電力日本 住友商事 セイア 正興電機製作所 セイコーグループ ソニーグループ
ダイキン工業 竹中工務店 中央日本土地建物 東亜合成 東京建物
東京電力ホールディングス 東洋紡 豊田合成 南海電気鉄道 日揮ホールディングス
日新運輸工業 日本カーバイド工業 日本精工 日本特殊陶業 日本化薬
フジワラテクノアート 北海道電力 三浦工業 三越伊勢丹ホールディングス 三菱マテリアル
三菱UFJ銀行 ヤマハ発動機 ユアサ商事 ユニ・チャーム ラック リコー ローソン ほか

第2回からご回答

アイセロ ANAホールディングス SCSK NECソリューションイノベータ 大林組
グッドコムアセット 建設技術研究所 弘電社 コナミグループ コニカミノルタ 四国銀行
静岡ガス 新日本科学 セイコーエプソン 西武ホールディングス 大和ハウス工業
TAKARA&COMPANY TSUCHIYA デンソー 電通グループ
東海東京フィナンシャル・ホールディングス 東芝三菱電機産業システム トランザクション
トランスコスモス 日鉄興和不動産 NIPPON EXPRESSホールディングス 日本電信電話
日本発条 日本航空 日野自動車 ファミリーマート フジタ 藤田観光 古河電気工業
三井化学 三井金属鉱業 三菱重工業 三菱UFJフィナンシャル・グループ
三菱UFJリサーチ&コンサルティング メルカリ UBE ほか

スコアリングを受けるメリット

1. 自社のスタートアップ連携のさらなる加速

- ▶ 自社のスタートアップへの取り組みの度合いについて、日本企業全体ないし業界内における位置把握や経年比較を通じ、**次のアクションに活かす**ことが可能に
- ▶ スタートアップや新規事業創出を担う現場担当者の取り組みを社内で前向きに評価することで、**モチベーション向上**に貢献
- ▶ スコアリング回答企業を対象に開催される**勉強会に参加可能**、自社のリテラシー向上とともに、他社の現場担当者との**横の繋がりを構築**

2. 対外的なPR

- ▶ イベントでの登壇や経団連ホームページ等における事例公表等により、スタートアップフレンドリーな企業としての**認知を向上**
- ▶ スコアリングの結果について、就職説明会ほか**自社のプロモーション機会に活用**することが可能に
- ▶ KIX等で経団連と連携している**スタートアップに対して情報発信**する機会を得ることが可能(リバースピッチ登壇等)

KIXの定期開催

大企業とスタートアップの連携を促進するため、2019年10月よりピッチイベント「Keidanren Innovation Crossing (KIX)」を定期開催
 2024年5月までに累計44回開催・延べ約300社が登壇



<p>対象分野の例</p>	<p>AI／データ分析 ロボット／ドローン／センシング ヘルステック・バイオ SaaS</p>	<p>農業・食品 宇宙 HR Tech クリエイティブ etc</p>
<p>コラボレーション先の例</p>	<p>経済産業省(J-Startup) 東京大学 京都大学 北海道大学 東北大学 東京工業大学 沖縄科学技術大学院大学 九州経済連合会 ILS</p>	<p>キャナルベンチャーズ Google シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム CiP協議会 ゼロワンブースター Beyond Next Ventures Plug and Play フォースタートアップス リアルテックホールディングス etc</p>

特別編

スコアリングのハイスコア取得企業によるリバースピッチ(2023年7月、7社登壇)

地方編

2024年1月17日 初の関西開催
 於:大阪ナレッジキャピタル

3. 大企業とSUの連携

KIXの模様



進行: 齊藤昇 企画部会長
(BIPROGY 代表取締役常務執行役員)

第1回 2019/10/1



VISITS Technologies
松本CEO

第9回 2022/5/24



Wamazing
加藤代表取締役CEO

第4回 2020/1/30
with J-Startup



シナモン 平野CEO

第6回
2021/12/10

グリーンエース
石川社長



第20回
2023/9/13

With Midwife
岸畑代表取締役



KIXの成果 ①



BIPROGY(株)とNDA締結、太陽光シミュレーションサービス等を活用した農業課題解決およびDX推進に向けて協議中



BIPROGY(株)が紹介したSOIPを経由し、松本山雅FCと共同でサポーターのエコな行動によるCO2削減量可視化の実証「松本山雅FC ゼロカーボンチャレンジ」を実施。



4社(通信業、保険業、印刷業、商社業)と案件を検討中



日清オイリオグループ(株)と共同研究を開始



KIXでのピッチの経験および参加者へのニーズヒアリングが大手との協業のヒントに

KIXの成果 ②



食品製造業企業と業務委受託契約を締結



(株)建設技術研究所が製品を購入
IoT×デジタルツインによる建築土木DXで作業効率化に貢献



イベント登壇を通じた∞Laboパートナー企業との
マッチングによる事業機会の提供
∞Laboパートナー企業のアセットを活用した事業成長機会の提供

一生涯のパートナー

第一生命

 Dai-ichi Life Group

ヘルスケア領域での協業、DX人材育成における協業、
大学連携によるリーダーシップ教育プログラムの実施を検討中



(株)グリーンエース、ファイトケミカルプロダクツ(株)が
ユーザ会イベントに登壇し、リレーション形成
ほか、複数社との面談およびNDA締結を実施

上記のほかにも、面談中・協議進行中の案件が複数存在

経団連Startup Slackをオープン

- 活発なスタートアップ関連活動の結果、KIX登壇スタートアップ約300社、CVCネットワークング会合出席CVC約50社、ほか各種スタートアップイベント共催パートナー等と幅広いネットワークを構築

スタートアップ・経団連会員企業・大学・VCなどによる
オンラインコミュニティ

「経団連Startup Slack」をオープン
すでに約450名が参加(2024年6月時点)

経団連 Startup Slackでできること

- 経団連からの案内を直接タイムリーに受信
- 自由な情報発信、イベント・企画等の宣伝
- イベントへの登壇応募、連携・相談相手募集
- 行政の支援情報、お役立ち情報の入手

※1社あたりの登録人数上限なし、登録・利用費用無料

利用者層 ※参加登録フォームの情報より算出



- その他 5%
- ・ VC・CVC
- ・ 支援機関
- ・ 大学
- ・ 自治体

利用画面イメージ

経団連 Startup Slack

00_はじめに-サイトマップ

2023年12月4日

経団連スタートアップ担当 さんがピン留めました

経団連スタートアップ担当 17:54

「経団連 Startup Slack」へようこそ！はじめにお読みください。

- 📌 お名前変更のお願い
表示名を「組織名_お名前（フルネーム）」にご変更をお願いいたします。
- 📌 ご利用にあたって
 - ① このSlackはスタートアップエコシステムの活性化のために立ち上げました。まずは「01_自己紹介」チャンネルで自己紹介をお願いします。ぜひ積極的に投稿・交流いただき、一緒に盛り上げてください！
 - ② ご参加は、経団連会員企業のほか、イベントへの登壇・参加等で経団連と接点のあるスタートアップ・行政・大学・VC等に限定しています。
 - ③ このSlackへの参加を第三者に勧めていただくのは大歓迎です！参加ご希望の方には、登録フォームをお伝えください。
 - ④ 本ワークスペースに投稿された情報・コンテンツ等の転載・複製・改変等、ならびに各メディアや媒体等への一切の掲載を禁じます。
 - ⑤ 無理な営業活動、機密情報・個人情報の不適切な取扱い等の不適切な投稿・行為が見られた場合は、事務局より退会処分を取らせていただきます。あらかじめお含みおきいただきますようお願いいたします。
- 📌 チャンネルの説明
チャンネル名に「kdr」と入っている場所の投稿は、すべて経団連がお送りするものです。その他のチャンネルでは、自由に投稿・交流いただけます。
10番台はイベント案内、20番台は募集・相談、30番台はスタートアップフレンドリースコアリング、40番台はTips共有のチャンネルです。各チャンネルの詳細は添付画像をご覧ください。

KIX OBOG会の開催

日時 12/20(水)9:00~11:00
会場 経団連会館2階 経団連ホール

- 「KIX」5年目に突入と登壇企業250社超えを機に、これまで**KIXに参加いただいたスタートアップ、大企業のOBOG会を開催**
- 当日は、座談会、軽食も交えたネットワーキングを実施
- 「経団連 Startup Slack」を本イベントをもってオープン

プログラム

9:00 開会
9:00-9:35 KIX登壇企業座談会



松本 順一
JCG CEO



原 邦雄
Beatrust
共同創業者&CEO



下地 邦拓
EFポリマー
COO



モデレーター
南場 智子
DeNA会長/経団連
スタートアップ委員長

9:40-10:15 KIX参加アクセラレーター座談会



ヴィンセント
フィリップ
Plug and Play Japan
代表取締役社長



浜宮 真輔
ゼロワンプースター
キャピタル
取締役・パートナー



小澤 彩織
東京大学協創
プラットフォーム開発
パートナー



モデレーター
入山 章栄
早稲田大学大学院
経営管理研究科教授

10:20-11:00 ネットワーキング

乾杯挨拶
出雲 充 ユーグレナ社長/
経団連スタートアップ委員長



お問い合わせ先

経団連 産業技術本部(スタートアップ担当)

venture@keidanren.or.jp

経団連スタートアップページ

